

知事あいさつ要旨

皆さん方にはお忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございました。ただ今ご紹介がありましたように、委員の任期2年ということで、今回は10月3日をもって委員の任期が満了した訳でございます。引き続き委員としてご活躍いただく皆さん方には、これまで同様よろしくお願いいたしたい次第でございます。また、公募制度で応募していただいたお二人もおられますけれども、新たに委員になられた皆さん方にも、是非よろしくお願いいたいと思います。何しろ大分県にとって、行政の基盤づくりという一番大事な行財政改革推進委員会の委員でございますので、行財政改革を引き続き引っ張っていただきたいと思っております。また、行政の方で怠慢があれば、それをしっかり監視をいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

この行財政改革でございますけれども、平成16年に「大分県行財政改革プラン」を打ち出して推進をしております。また、21年からは、「大分県中期行財政運営ビジョン」を打ち出しました。ずっと行財政改革を進めてきたところでございます。定員の削減を計画的に行うなど、総人件費の抑制もありました。また、事務事業のゼロからの見直しということで、不要不急なものは廃止をし、新しく必要なものをこしらえていくということで努力をさせていただいたところでございます。しかし、しばらくの間行財政改革を進めるにしても、必要な資金に対して入りが厳しいということで、実は、財政調整用基金をしばらく取り崩しながら繋いでいくのかなと、こう思っておりました。計画では23年度末に財政調整用基金が35億円ぐらいまでになるかなと思っておりましたけれども、逆に420億円積み上げまして、財政調整用基金455億円までになったところでございます。それから、借金の方でございますけれども、23年度末、1兆651億円ぐらいになるかなと計算をしておりましたけれども、こちらの方も、1兆418億円ということで、減らしているという経緯がございます。これも、ひとえに皆様方のご指導のおかげでございまして、心からお礼を申し上げる次第でございます。

財政調整用基金を455億円も積み上げる必要があるかというご議論もあったわけでございますけれども、今、国の状況が何が起るかわからないということでございますから、財政調整用基金という形で、借金返済のための資金、それから非常時のための資金ということで貯金を貯めておく必要があるなど、こう思っているところでございます。今回、7月に集中豪雨による大水害がありましたけれども、それに対して直ちに補正予算を組んで対応できたのも、こういう調整用基金があったおかげではないかなと思っております。やはりできるだけ、この行財政改革の手綱を緩めず、しっかりと基盤を強めることは、大変必要だと痛感した次第でございます。そんな思いでこれからもしっかりと行財政改革に取り組んでいきたいと思っております。これからいろんな行政需要にしっかりと応えていくためにも、基盤を整えておくことは大変大事でございますから、そんな思いで皆さん方のご指導をいただきながら、進めてまいりたいと思っているところでございます。

大変厳しい状況の中での委員会で、皆さん方にはいろいろとご苦勞をおかけすると思っておりますけれども、なにとぞよろしくお願い申し上げます。